

一、次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

四隅を見る「大局観」を持つ

谷川

社会が成熟して複雑になってくると仕方がないことかもしれませんが、何事につけてもリスクを避けて、無難なほうへ無難なほうへと流されがちな傾向が社会全体にあるように思います。しかも「木を見て森を見ず」と言いますか、何か細かいことばかりにこだわって大切なものを見失っているような気がするんですね。

二〇〇四年の春に、初めて山形県天童市の有名な「人間将棋」に、解説者として招かれて行ってきました。全国から公募で選ばれた人が駒武者になって、プロ棋士の指し手どおりに^ア動くわけですが、対局する棋士が苦勞するのは、駒武者の方が全員、一度は動くように指さないといけないんですね（笑）。実際には、一局の中で全部の駒が動くことはなかなかないわけで、たいがい五枚ぐらい、多い時は十枚ぐらい動かない駒が出るものなんですが、^ア参加していただいているのに、最後までじっとしたままの人が出るのは気の毒なので。

① あれを見ていて、将棋の見方が少し変わりましたね。まず人間将棋というのは、駒武者が西と東にわかれて合戦をやつて、イ勝負がつかないで将棋で決着をつけよう、という設定で始まるわけです。だから駒武者は皆甲冑を身につけているんですね。それを見て思ったのは、やはり将棋というのは戦いのゲームだということ。そして、実際に大きな会場で人が駒になって動いているのを見て思ったのは、将棋というのは小さなことにこだわってはいけないんだということですね。研究がさかんな最近の将棋は、つい^ロ瑣末なことにこだわりがちなんです。もともと大らかに将棋を指してもいいんじゃないか、ということですよ。

それから、全部の駒を働かせるために対局者が苦勞しているのを見て改めて思ったのは、遊び駒をつくってはいけない、ということですよ。将棋の世界でよく「香車四枚を見る」ということを言います。それはつまり、香車というのは将棋盤の四隅にあるわけですから、盤面全体を視野に入れて指せ、ということですね。もちろん^ハそつするようには気がつけてはいるのですが、やはりどうしても局面の焦点になっているところだけしか見えていないということになりがちです。遊び駒を作つてはいけない。つまり、すべての駒が有効に働いているかどうか絶えず目を配つて指すことの大切さを改めて思いました。

② 「大局観が大切」ということとは将棋に限らずよく言われるわけですね。例えば戦国時代になぜ徳川家康が最終的に天下を取ることができたかといえは、他の戦国大名と違って家康は鎌倉幕府が編纂した『吾妻鏡』などの歴史書を愛読して、大きな歴史の流れの中で自分が果たす役割をしっかり分かっていたからだと言われます。ビジネスの世界でも、これまでの常識が通用しない変化の時代だからこそ、毎日の仕事に没頭してしまうのではなく、時には歴史の本をひもといてみるなどして、スケールの大きな視野をもって仕事にあたる必要があるのではないかと感じます。

生きるとは、何かと対局すること

河合

全体を見るというのは心理療法でも大切ですよ。人というのは関係の中で生きていますから、クライエント本人だけ見えても問題は見えてこないですね。親とか教師とか周囲の人も含めた全体の中でイメージしていくことが大事ですし、一人が変わってくると全体が変わってくることもあるわけです。

③ ウ、僕らがやっているユング派の心理療法では、^ロ「箱庭療法」というのがあります。相談に来た人に箱庭をつくってもらうんですね。六十センチ×七十センチぐらいの砂が入った箱に、小さな動物の人形ですとかいろんなおもちゃを置いて、なんでもいいからひとつの世界をつくってもらうわけです。そこに、箱庭をつくる人の心の中にある世界が表現されるわけですね。そして不思議なことにそれを何度もつくっているうちに、クライエントが自分で治っていくということがよくあるわけです。

例えば、幼児虐待を受けた経験がある人に箱庭をつくってもらって、交通事故のシーンとか戦争のシーンとか、人が死ぬ悲惨な光景ばかりつくるといふようなことがあるんですね。ところがそれを何度も繰り返すうちに、^エオおさまって、だんだんと平穏な光景に変わっていく。そういうことが起こるわけです。

自分の内側にある世界が、小さなスペースの中で全部表現されるという点では、箱庭療法も将棋もよく似ていますね。

実際に、将棋を指したり碁を打ったりしている間に治っていく子どもも時々ありますよ。クリニックに神経症のお子さんなどが来られますが、子どもが遊ぶ部屋にはちゃんと碁とか将棋の道具が置いてあるんです。それで遊んで、将棋ばかりやって治っていく子どももいます。

そういう時は、将棋なら将棋を指すことの中に、その子なりのいろんな思いがこもってるわけですよ。それで、最初のうちはやつぱり弱くて、それがだんだん強くなっていくわけですよ。強くなっていくということは、自分が成長したということにも言い換えられます。まして先生に勝ったなんていったら、「E」という気がするかもしれません。いろんな気持ちが入っているわけですよ。だから、将棋をやってだけでなく治っていく、そういう例もあります。

麻雀をした子もいますよ。僕と二人だけど、三人おるようにして麻雀はつきりするんです。

普通に相談してる時にも、イメージとして将棋や碁や麻雀の話はよく出てきます。というのは、生きるといえるのは、言ってみれば何かと対局してることだからでしょうね。考えてみたら、僕らでも生きている時には将棋や碁のように世界と対峙^{たいじ}しているわけです。だから、対局というのは生きてるといえることなんです。

例えば、夢の中で麻雀をやっていたとするとするでしょ。その時に誰とやっていたかというのを聞くと、面白いんです。例えば、自分の左右にいた人は誰か分かっていたけど、正面にいた人が誰か分からなかった。^オ「 」、その人はまだ相手にすべき人が見つかっていないのかもしれないですね。そんなことを考えていくわけです。

「あるがまま」を受け入れる技術

何もしないことが、プラスの力を生む

河合隼雄 / 谷川浩司 著

問一 空白部ア～オに当てはまる言葉を次から選んで番号で答えなさい

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|-------|
| 1 しはしは | 2 それでは | 3 しかし | 4 せっかく | 5 つまり |
| 6 だから | 7 ところで | 8 いっしか | | |

問二 傍線部A「木を見て森を見ず」について二十字程度でまとめなさい。

問三 傍線部Bの主語を答えなさい。

問四 傍線部Cについて谷川さんは具体的にどのように言っていますか。文中の言葉で答えなさい。

問五 傍線部①・②が指し示すことを文中の言葉で答えなさい。

問六 波線部(a) (b)の意味として適切なものを番号で答えなさい。また、品詞を答えなさい。

- | | | | | |
|-------|--------|-----------|-------|---------|
| 1 大切な | 2 向き合う | 3 取るに足りない | 4 心配な | 5 相手となる |
|-------|--------|-----------|-------|---------|

問七 傍線部D「箱庭療法」では、つくる人の何が表現されますか。

問八 E について「先生に勝った」とき、どんな気がしたのでしょうか。次の三つから選んで記号で答えなさい。

- Ⓐ 俺も大人になった Ⓔ 俺も強くなった ⓓ 俺もりっぱになった

問九 河合さんは次のように述べています。() の中に言葉を入れて文を完成させなさい。

・ 生きるとは、何かと対局すること

・ 強くなるとは、()

二、カタカナ部分を漢字で書きなさい。(送り仮名が必要な場合もあります)

- ① ヨボウセツシユを受ける ② 血圧をハカル ③ セツシヨクシヨウガイと診断される
④ 時間をツイヤス ⑤ キビシイ暑さ

三、傍線部の漢字の読みをカタカナで書きなさい。

- ① 研究猪表 ② 傾軋する ③ かぜの症状 ④ 低栄養状態 ⑤ 過分なお言葉

四、次の慣用句やことわざの意味を□の中から選んで記号で答えなさい。

- ① 猫に小判 ② 猫の目 ③ 猫もしゃくしも ④ 猫をかぶる ⑤ 猫の手も借りたい

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ① 何の役にも立たないこと | ② 大好物 |
| ③ だれもかれも、どれもこれも | ④ どんな手伝いでもしてほしい |
| ⑤ 次から次へと変わること | ⑥ どうにも動きがとれないこと |
| ⑦ 貴重な値うちがわからない | ⑧ 表面だけをよく見せること |

小論文問題

題「優しさとは」

六百字程度で論じなさい。